

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 あんだんて			
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～	令和7年 1月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24家族	(回答者数)	21家族
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～	令和7年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数の利用児に対し、十分な支援者人数で支援が行える体制が整っている。	1人ひとりの特性や強みについて職員が共通認識を持つと共に、一人ひとりのその時の状況に応じた支援が行えるように職員間で情報共有を図っている。	保護者と密に連携を図ることで、日頃の様子を正確に把握し、保護者や利用児の意向や気持ちに寄り添いながら、支援していけるようにしていく。
2	親子での活動を行う事ができている。	親子での活動の中で、保護者の悩みを伺ったり、対応の仕方の実践を見ていただいたりしている。関わり方のコツを伝えたり一緒に考えたりしている。	保護者の思いや悩みに寄り添い、相談しやすい雰囲気作りに努める。職員の相談援助技術の向上のための研修を充実させる。
3	親子の活動では、保護者同士の繋がりが持てている。	親子療育の場面では、保護者同士で話しができています。不定期ではあるが、保護者同士で話しが出来る場面を設定し、意見交換ができるようにしている。	定期的に意見交換ができる場を設けたり、講師を招いて勉強会を開催したりしていくことを検討したい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動のスペースの確保が難しい。	少人数の為、多少狭くても工夫をする事でスペースの確保は出来ているが、年長さんになると、伸び伸びと過ごすためには狭いと感じる。	活動の内容や利用者の人数、年齢に応じて、事業所外の公共の場を利用したり、指導訓練室を分けて利用したりする工夫をしていきたい。
2	利用児の動きに合わせた安全上の動線の難しさがある。	事業所の建物の構造上、動線やバリアフリー化が難しい。	利用児の動きを想定し、危険を感じる場所や場面において、イラストを用いて表記をしたり、職員を配置したりして安全に十分配慮していく。
3	職員の資質向上のための研修の充実	職員一人ひとりが学びたいと思う研修を、平等に受けられていない状況がある。	職員の学びたい研修を適切に受けられるよう、時間の確保や人員の確保を行っていく。様々な研修の情報収集を行う。